2018年7月6日 7人――　7月26日 6人――

第13回アウェアネス映画祭
（ロサンゼルス）
「気づきの功労賞」受賞
Merit Award of Awareness

望むのは死刑ですか

オウム〝大執行〟と私

［告白編］

被害者側の葛藤。
加害者側の痛み。
語り始めた当事者たち

制作・監督・撮影：長塚 洋［2022／HD／60分］

死刑制度について考える

映画上映会＆監督とのトークセッション

長塚洋監督のドキュメンタリー映画「望むのは死刑ですか　オウム“大執行”と私［告白編］」の上映と長塚監督、大川哲也弁護士（札幌弁護士会所属）のトークセッションを通して、皆さんと共に死刑とはどのようなものか、改めて考えてみたいと思います。

日時◆2024（令和6）年3月22日　18：00～20：00

場所◆かでる２．７（北海道立道民活動センター）　８２０研修室
（札幌市中央区北２条西７丁目）

参加料　無料

主催・札幌弁護士会　共催・日本弁護士連合会、北海道弁護士会連合会

もし自分が被害者だとしたら？ そう想像してみる前に、まずは当事者の声を聞かなければならない。
死刑制度に賛成か反対かだけでなく、そのあわいで揺れる複雑な思いに耳を澄まそう。
静かに考え、**静かに語り合うべき映画。**

——平野啓一郎（小説家・『死刑について』著者）

対峙し「殺してやろうか」と憎んだオウム幹部だが、**人を殺す死刑には反対だ。**
坂本事件を失踪と言い続けた国は私たちが訴えたサリン製造疑惑も調べなかった。
事件を真に解明できないまま執行したその責任は重い。

——竹内精一（上九一色村・元オウム真理教対策委副委員長）

岡田弁護士の死刑への迷いや矛盾した心情に共感した。
身内を殺された私も死刑判決は当然と受け止めた後、今は加害者執行の報せを聞きたくない心の矛盾がある。
この映画で、**さまざまな当事者がいる事**に思いを致してほしい。

——尾崎秀行（「堺市連続強盗殺人」被害者遺族・僧侶）

「事件は全く終わっていない」との永岡氏の言葉に、
世間と当事者の感情のギャップを痛感する。カルト宗教が齎す悲劇、そして死刑制度の意義とは。
今まさに、平成の大事件に巻き込まれた当事者の証言に耳を傾ける時である。

——阿部恭子（加害者家族支援NPO「World Open Heart」代表）

オウム真理教事件が明白に示した、死刑問題が抱える悩み。
映画に登場する人々の苦悩を通して、死刑制度の是非やあり方を
皆さんに考えて欲しいと思います。

——平岡秀夫（元法務大臣・弁護士）

2018年7月、ひと月に13人。かつてのオウム教団の教祖と幹部らが死刑に処されたのは29人もの命を奪った罪状ゆえだったが、あまりに異形の「大量処刑」は、日頃は死刑に無関心なこの国の人々を揺るがした。ずっと圧倒多数だった死刑賛成の世論が、直後の調査で近年になく減少するほどに。その衝撃も冷めぬ間の、翌8月。映画監督の呼びかけに応え、ある人々が次々とトークショーに立った。
それは、被害者側あるいは加害者側で今回の死刑囚らと深く関わった者たちだ。教祖の元弁護人、教団から家族を救い出す運動のメンバー、殺害された弁護士の同僚。執行で直面した戸惑いや悔恨、果ては罰する側の国への憤り…胸中を明かす言葉は我々の一面的な「被害者像」「加害者像」を打ち砕いていく。さらに後日、殺害された弁護士と親しかった男2人が死刑を賛否に分かれて論じ合う場にも、カメラは立ち会う。賛成を貫く方の男は、自身オウム信者に命を狙われた被害者だ。ここに集大成された「当事者」4人の言葉は、重いリアリティと共に問いかける。衝撃の“大執行”の意味は、そして究極の刑罰＝死刑が私たちにもたらすものとは？

語る人たち

「国に、裏切られた」

永岡英子（オウム真理教家族の会）

オウム教団から子どもを取り戻そうとする親たちで会を結成し30年、今も活動中。夫は猛毒で襲撃され障害者に。子どもたちの一部が加害者となりついには死刑となる痛みを背負う。

「問答無用で殺すなんて」

小川原優之（麻原彰晃の元弁護人）

オウム教祖・麻原彰晃こと松本智津夫被告（当時）の弁護団12人の一人。社会に処罰感情が吹き荒れる中、複数の殺人事件を含むいくつもの犯罪について8年にわたる裁判（一審）を闘う。その後は死刑制度と深く向き合い、現在は日弁連の死刑廃止実現本部事務局長。

「友を殺した相手が死刑に。だが…」

岡田尚（被害者の坂本堤弁護士同僚）

法律事務所で後輩だった坂本氏に、オウムから娘を取り戻したいという、ある親の相談を紹介。その後オウム問題に取り組んだ坂本氏と妻と幼い息子が失踪（1989年。殺害されていたと後に判明）したのを機に、オウムと対峙し続ける。坂本一家の遺族に寄り添ってきた、代弁者的な存在でもある。死刑反対派だったが事件で苦悩することに。

「私の命も狙われたんです」

滝本太郎（オウム事件被害者・脱カルト活動家）

友人だった坂本氏と家族の失踪を機にオウムとの闘いに没入し、信者の脱会や訴訟に今も取り組む。自らもサリンガス等で命を狙われている。教祖・麻原彰晃にだけは死刑執行をと、強く主張してきた。

日時◆**令和6年3月22日**　18：00～20：00

場所◆かでる２．７（北海道立道民活動センター）　８２０研修室（札幌市中央区北２条西７丁目）